

7. 切土盛土計画

1) 造成計画の概要

造成の目的は公園2カ所と集公場を有する185宅地の造成である。

計画地南側の八王子市幹線2級7号線と、計画地北側の八王子市道横山361号線の高低差は約33mである。南側より5m以内で雛壇形状に標高を上げて宅地を整形し、北側道路の高さまで宅地造成を行う計画とした。計画道路は既設公道と接続し4方向に通り抜けが可能な計画とした。

南西側は主に切土を行い北側の盛土にその土砂を使用する。切土の高さは最高で8m程度、盛土の高さは最高で6m程度である。尚、本事業における造成法面は最大で4.9mであり、長大法の基準、盛上で9m、切上で10mを超える一体の法面には当てはまらない。

土量の内訳について切土量は86,714 m³、盛土量は102,298 m³、総土工量は343,314 m³である。次項より造成計画平面図・断面図、土量計画平面図・断面図を提示した。

表 3-36 造成面積と土工量

項目	面積 (m ²)	上量 (m ³)
切土	18,556.67	86,714.38
盛土	25,135.00	102,298.00
合計	43,691.67	189,012.38
差引土量		15,583.61
上工量	(切上量-盛上量) : 開発区域面積 (86,714.38 m ³ +102,298.00 m ³) ÷ 60,845.02 m ² = 3.106 m ³ /m ²	

※表 3-36 の通り切土量に対し盛土量が上回っているが、切上8.6万m³と排水管や擁壁等の構造物を築造する事から発生する土砂、約1.5万m³を合わせ差引の土量が0m³となる土量バランスで計画した。

2) 土工量について

本事業の造成計画における総土工量は表 3-37 単位当たり土工量は表 3-38 に示す。

表 3-37 総土工量

切土量 (m ³)	+	盛土量 (m ³)	=	総土工量 (m ³)
86,714.38	+	102,298.00	=	189,012.38

表 3-38 単位当たり土工量

総土工量 (m ³)	÷	事業区域面積 (m ²)	=	単位面積当たり土工量 (m ³)
86,717.38	÷	102,298.00	=	3.106 < 6

3) 丘陵地における適正開発のための指導指針への対応

① 計画地東側に並ぶ住宅地に合わせ宅地の配置を行い、西側に植栽緑地や残留緑地を設け丘陵地の景観特性を生かし周辺と調和を図った計画となるようにした。

また計画地には事業者管理の緑地を2カ所、公園を2カ所設け緑化に配慮した。

② 単位面積当たりの上工量は「(切上量+盛上量)÷事業区域面積」で算出すると(86,717.39 m³+102,298.00 m³)÷60,845.02 m²=3.106 m³/m²となり、指導基準である6.0 m³/m²を下回る。

4) 土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域への対応策

事業地内には土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域に指定された急傾斜地と土石流の危険箇所が存在する。本事業ではその高低差を以下の図のように、擁壁や地下車庫によって5m以内の雛壇形状で造成し、事業地全体として緩やかな勾配となる。また造成によって区域の指定も解除となる予定である。

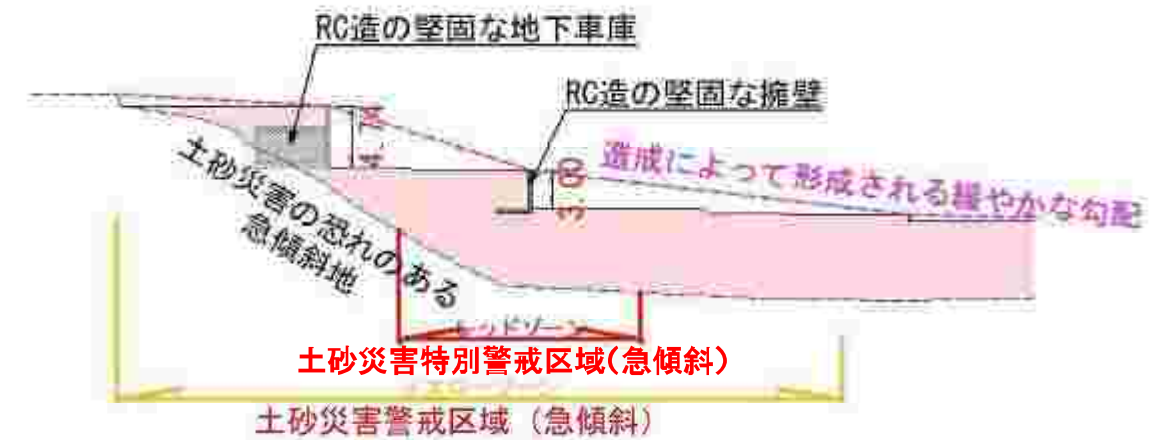
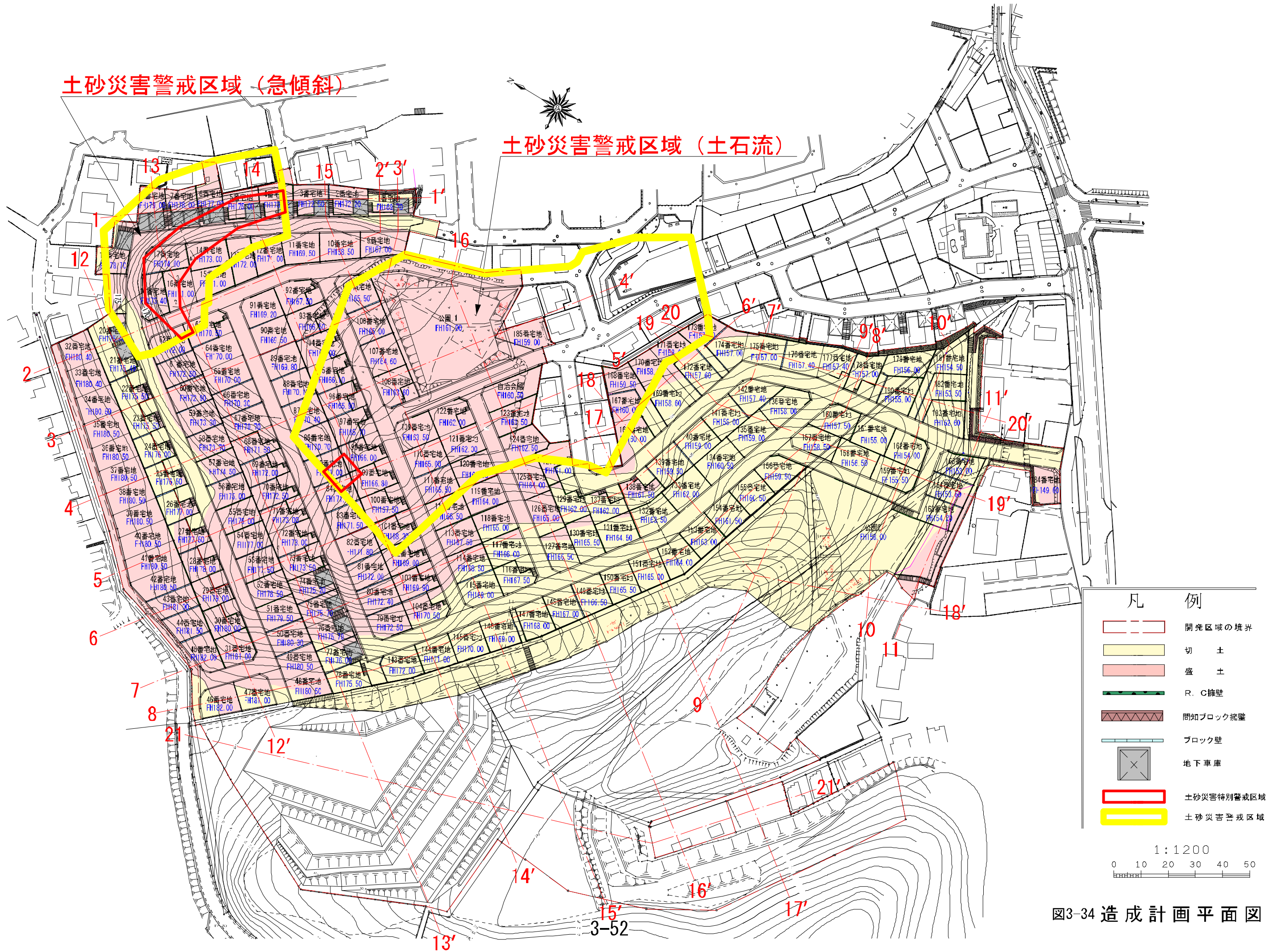


図 3-33 13-13' 断面より雛壇形状の造成

土砂災害警戒区域（急傾斜）

土砂災害警戒区域（土石流）



凡 例	
	開発区域の境界
	切 土
	盛 土
	R、C擁壁
	間知ブロック擁壁
	ブロック壁
	地下車庫
	土砂災害特別警戒区域
	土砂災害警戒区域

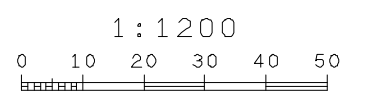


図3-34 造成計画平面図

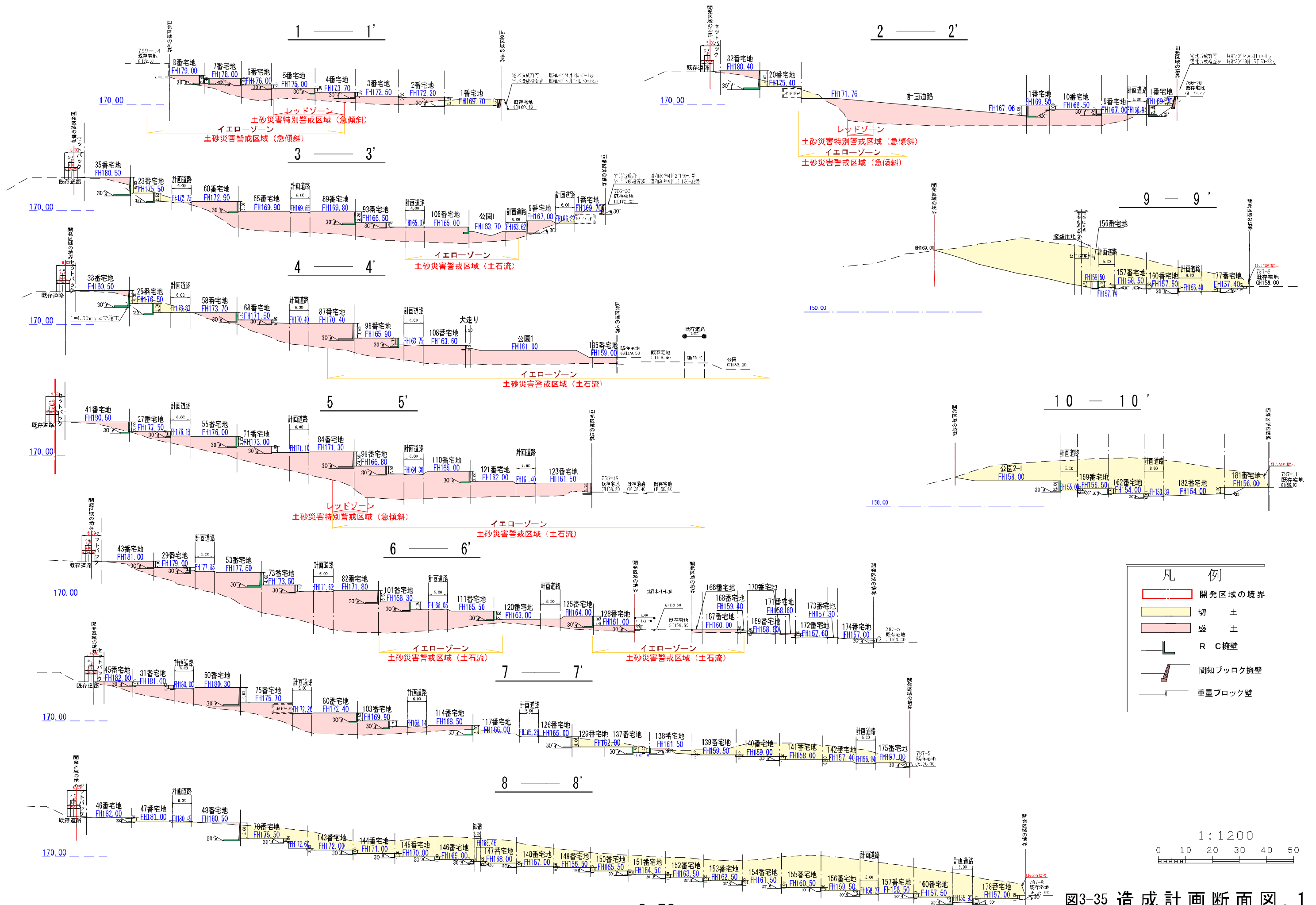


図3-35 造成計画断面図. 1

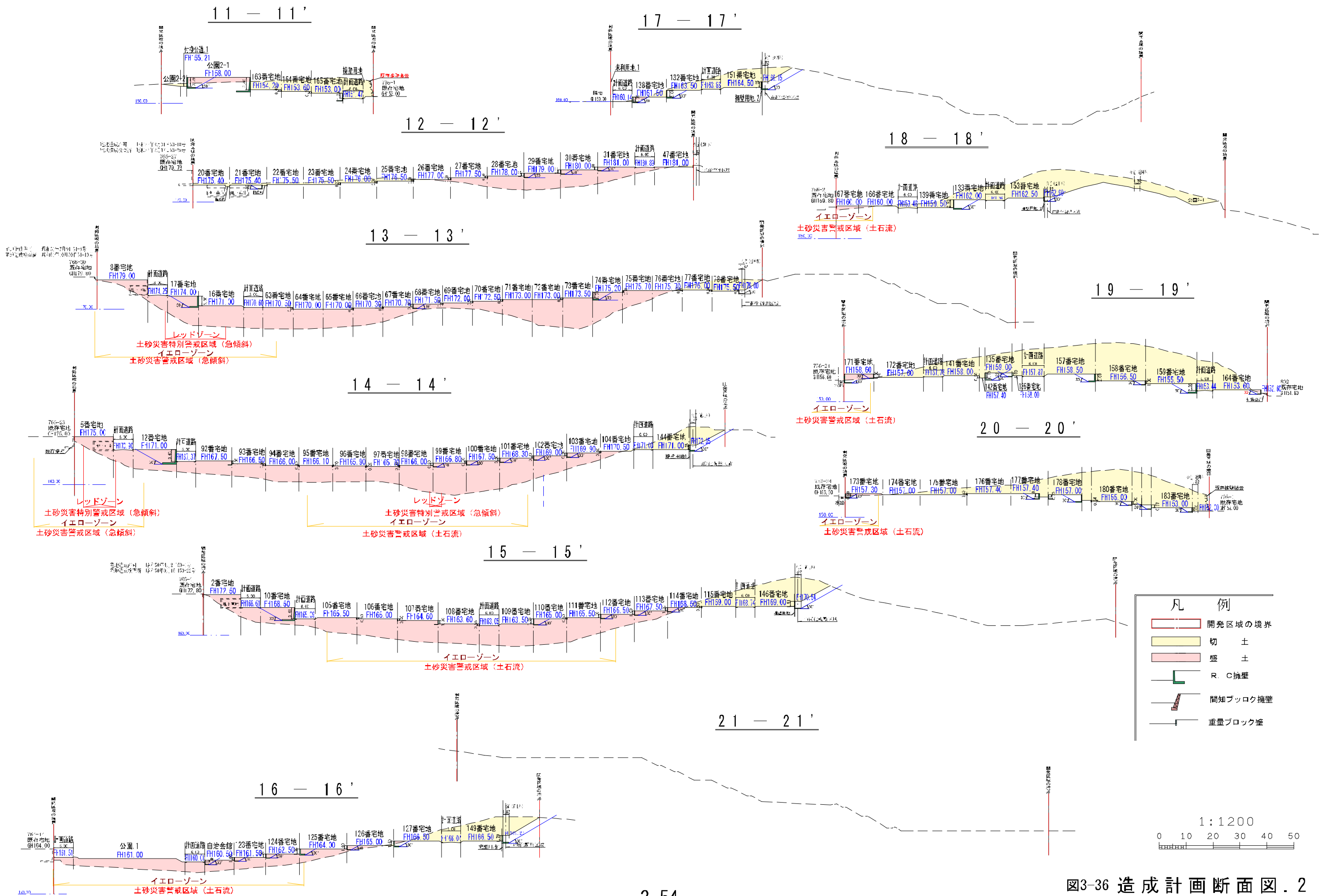
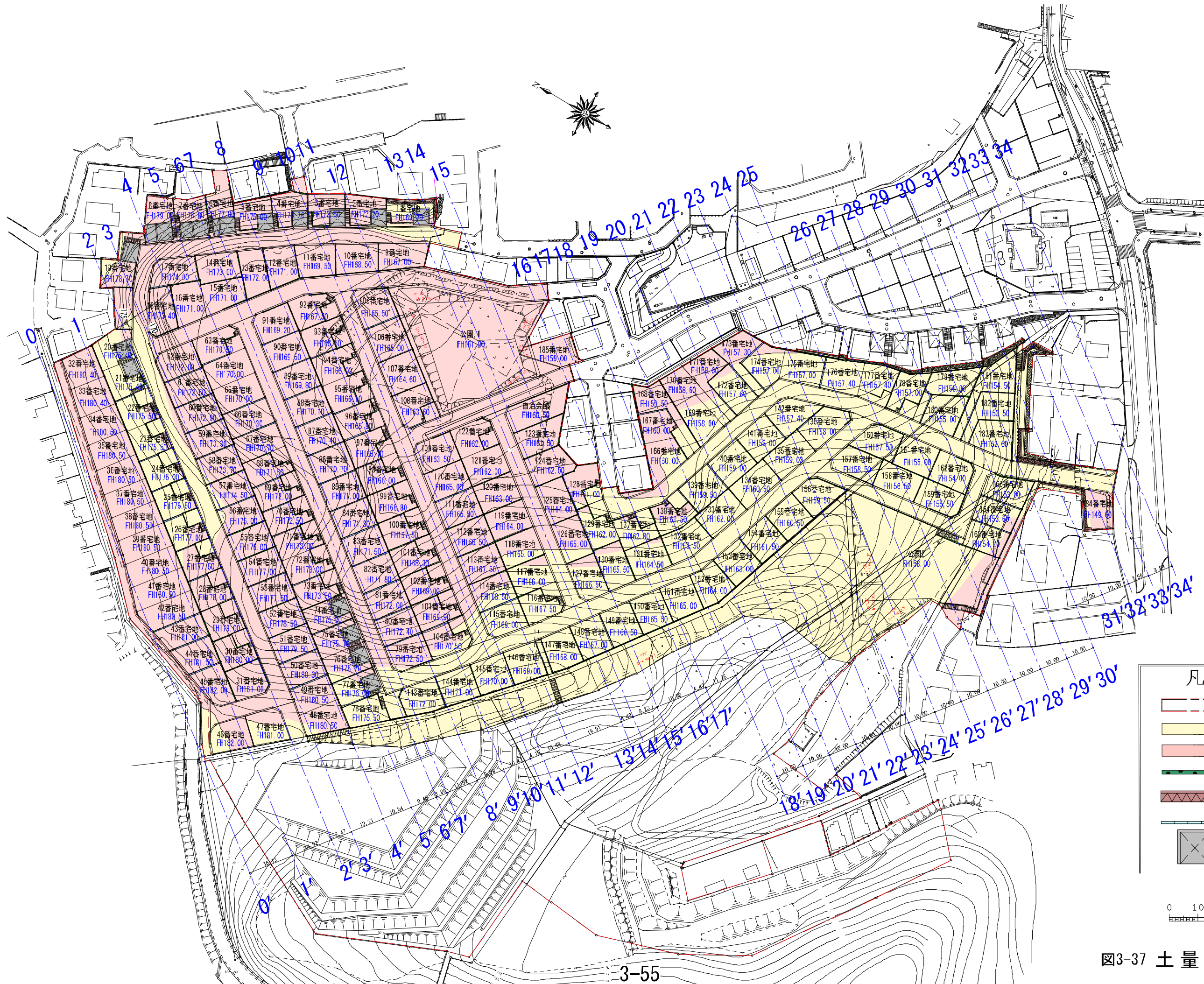


図3-36 造成計画断面図. 2



凡 例	
	開発区域の境界
	切 土
	盛 土
	R. C擁壁
	間知ブロック擁壁
	ブロック壁
	地下車庫

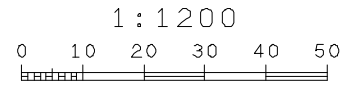


図3-37 土量計画平面図

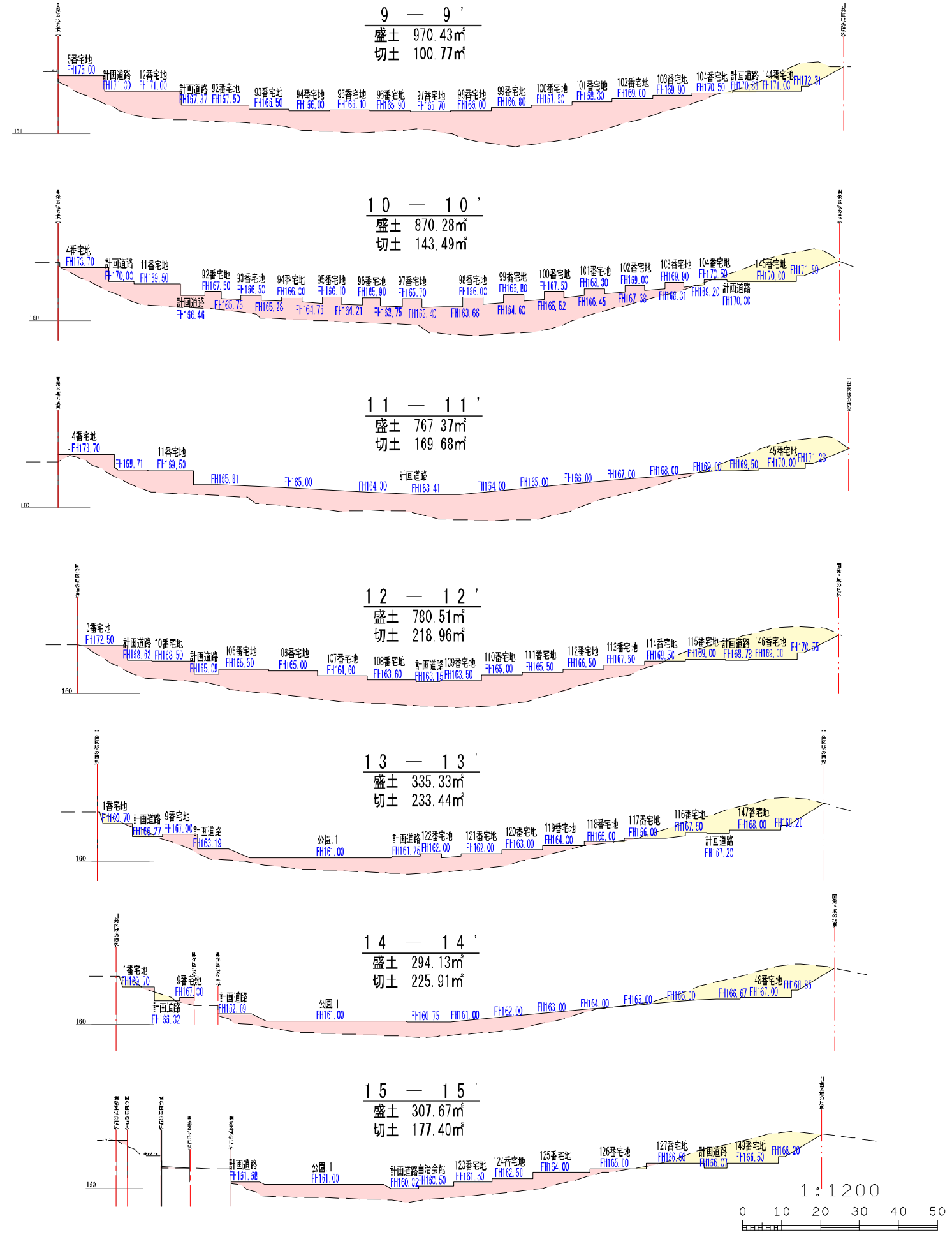
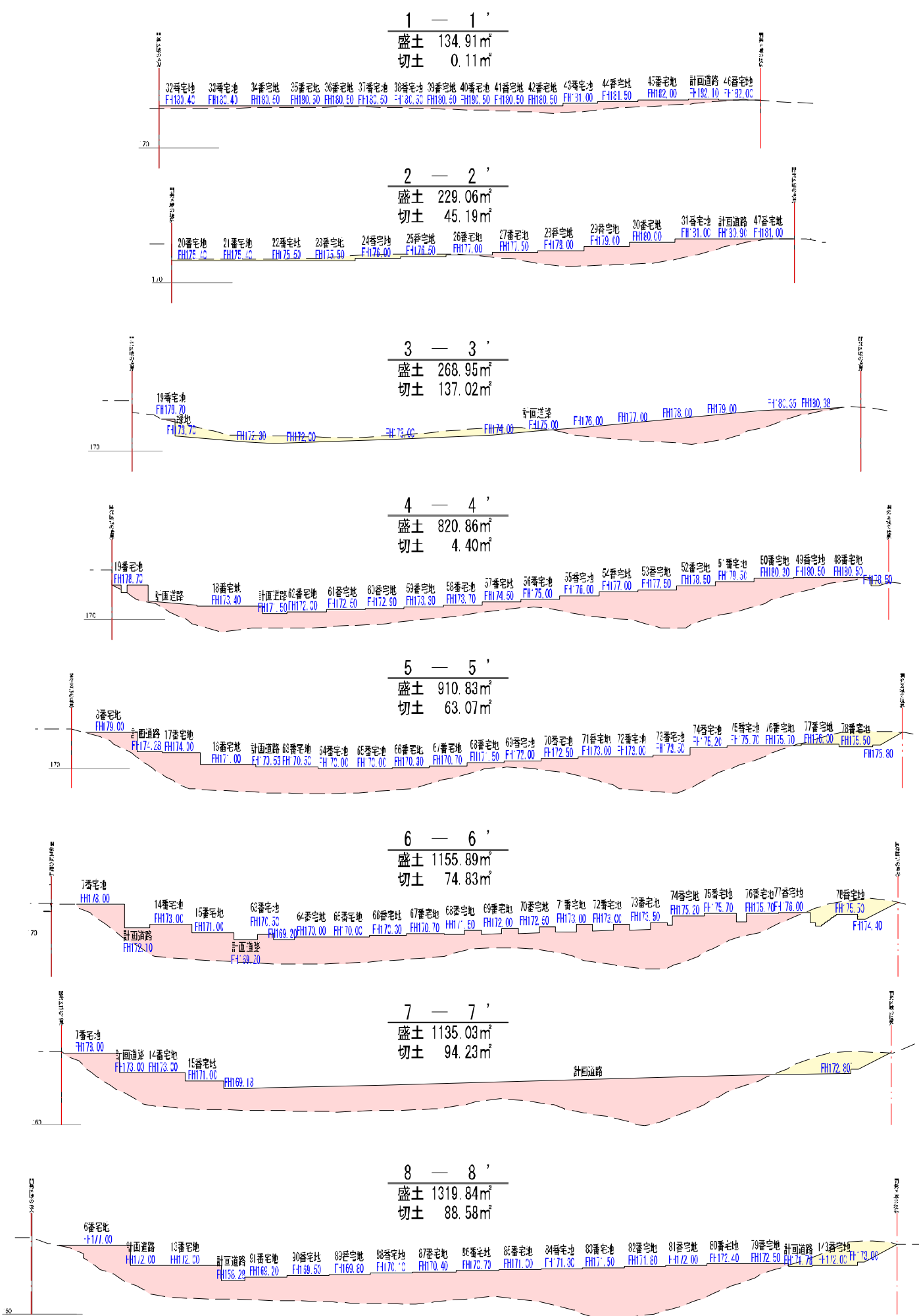
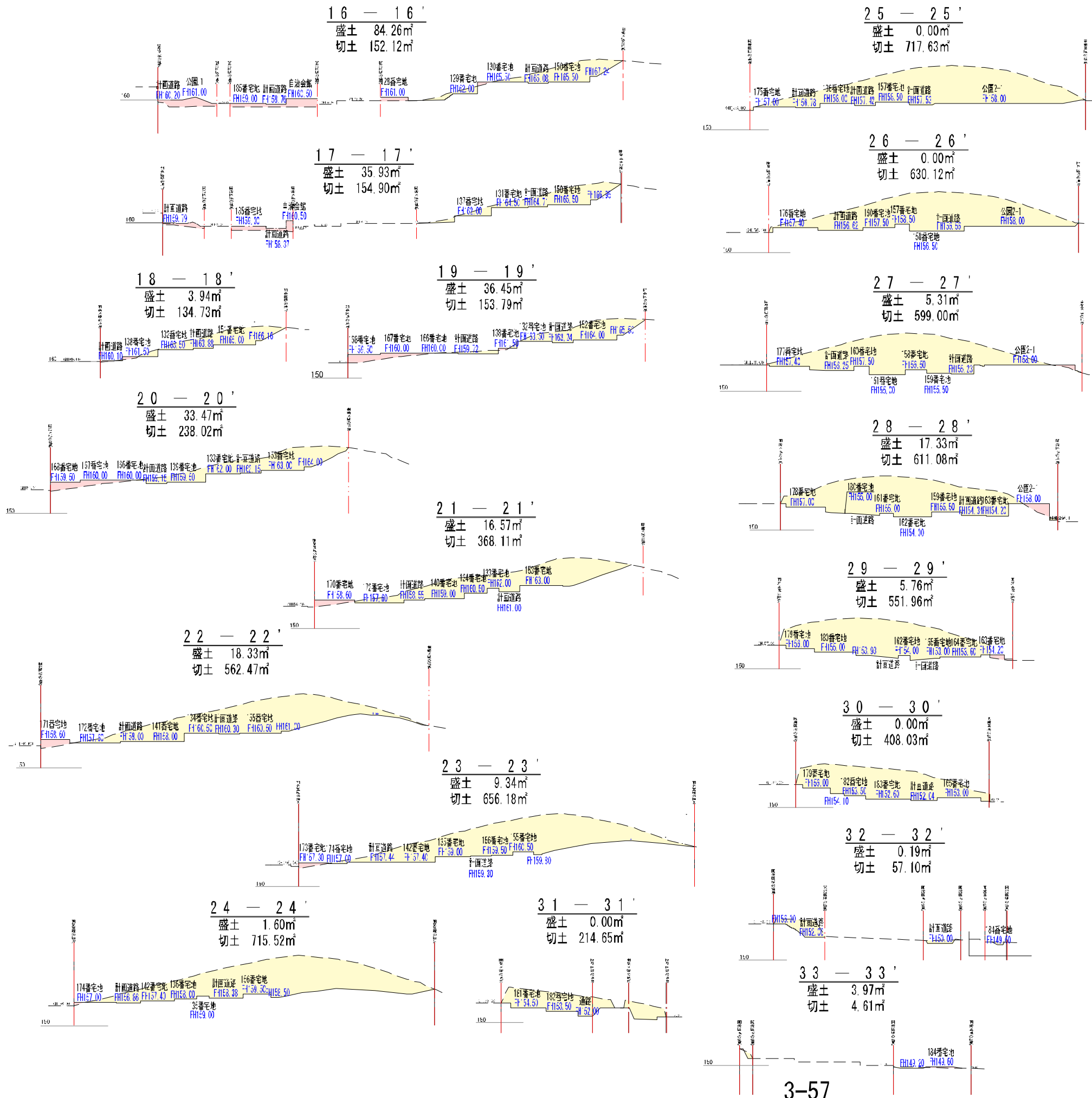


図3-38 土量計画断面図1



番号	切土面積	盛土面積	平均切土面積	平均盛土面積	距離	切土量	盛土量
0	0.00	0.00	0.055	67.455	16.13	0.8872	1088.0492
1	0.11	134.91	22.650	181.985	14.92	337.9380	2715.2162
2	45.19	229.06	91.105	249.005	7.47	680.5544	1860.0674
3	137.02	268.95	70.710	544.905	12.21	863.3691	6653.2901
4	4.40	820.86	33.735	865.845	10.54	355.5669	9126.0063
5	63.07	910.83	68.950	1033.360	9.46	652.2670	9775.5856
6	74.83	1155.89	84.530	1145.460	3.99	337.2747	4570.3854
7	94.23	1135.03	91.405	1227.435	11.57	1057.5559	14201.4230
8	88.58	1319.84	94.675	1145.135	9.99	945.8033	11439.8987
9	100.77	970.43	122.130	920.355	10.11	1234.7343	9304.7891
10	143.49	870.28	156.585	818.825	4.19	656.0912	3430.8768
11	169.68	767.37	194.320	773.940	10.49	2038.4168	8118.6306
12	218.96	780.51	226.200	557.920	19.91	4503.6420	11108.1872
13	233.44	335.33	229.675	314.730	4.49	1031.2408	1413.1377
14	225.91	294.13	201.655	300.900	9.23	1861.2757	2777.3070
15	177.40	307.67	164.760	195.965	13.90	2290.1640	2723.9135
16	152.12	84.26	153.510	60.095	4.47	686.1897	268.6247
17	154.90	35.93	144.815	19.935	11.26	1630.6169	224.4681
18	134.73	3.94	144.260	20.195	10.00	1442.6000	201.9500
19	153.79	36.45	195.905	34.960	10.00	1959.0500	349.6000
20	238.02	33.47	303.065	25.020	10.00	3030.6500	250.2000
21	368.11	16.57	465.290	17.450	10.00	4652.9000	174.5000
22	562.47	18.33	609.325	13.835	10.00	6093.2500	138.3500
23	656.18	9.34	685.850	5.470	10.00	6858.5000	54.7000
24	715.52	1.60	716.575	0.800	10.00	7165.7500	8.0000
25	717.63	0.00	673.875	0.000	10.00	6738.7500	0.0000
26	630.12	0.00	614.560	2.655	10.00	6145.6000	26.5500
27	599.00	5.31	605.040	11.320	10.00	6050.4000	113.2000
28	611.08	17.33	581.520	11.547	10.00	5815.2000	115.4650
29	551.96	5.76	479.995	2.882	10.00	4799.9500	28.8150
30	408.03	0.00	311.340	0.000	10.00	3113.4000	0.0000
31	214.65	0.00	135.875	0.095	10.00	1358.7500	0.9500
32	57.10	0.19	30.855	2.080	10.00	308.5500	20.8000
33	4.61	3.97	2.305	1.985	7.59	17.4950	15.0662
34	0.00	0.00	0.000	0.000	8.94	0.0000	0.0000
						86714.3825	102298.0024
						差引土量	15583.6199

※切土量に対し盛土量が上回っているが、切土8.6万m³と排水管や擁壁等の構造物を築造する事から発生する土砂、約1.5万m³を合わせ差引の土量が0mとなる土量バランスで計画した。

1:1200

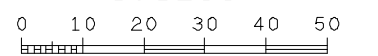


図3-39 土量計画断面図2

5) 切土・盛土の留意点

- ①切土・盛土工事の施工にあたり現地盤の草木等は、測量成果に基づき守るべき緑地の位置を表示して伐採・伐根し産業廃棄物として処理する。
- ②伐採・伐根の手順は残留緑地より遠方の場所より行い、守るべき動植物を残留緑地に移植または移動可能な状況にして、残留緑地へ向けて行う。
- ③盛土面下部に暗渠管（主管 300 mm・枝管 200 mm）を地下排水施設として沢の低地部、湧水筒所に設置し既設の雨水管へ接続する。
- ④ボーリング調査の結果から現況地盤に軟弱層を確認した為、土質試験（1軸圧縮強度試験）を行い、その結果により計算される改良剤の量を事業地内で混入・攪拌したものを再度土質試験で確認し適正に処理された土砂のみ使用する。
現況地盤より上の盛土についても同様に行う。
- ⑤盛土の施工において盛土する前の地盤面の勾配が 15 度程度以上の傾斜地盤に盛土を行う場合は盛土の滑動及び沈下が生じないように、現地盤の表土を十分に除去するとともに段切りを行う。
- ⑥盛土の転圧は所定の密度が得られるよう、20 cm～30 cmごとに敷均し転圧を行い十分に締め固める。

6) 擁壁や地下車庫の安全性の検討と管理

① 計画時において

本事業に使用する擁壁は 1m から 3m までは『八王子市「都市計画法」の規定に基づく開発行為の許可等に関する審査基準』に掲載されている標準擁壁を使用する。
3m を超えるものについては、同基準内の設計諸元に基づいた構造計算を行って開発許可申請で審査を受ける。

地下車庫においては建築物となる為、建築確認申請を行いその中で構造計算の審査を受ける。

どちらにおいても、破壊、転倒、滑り、沈下が生じないことを、構造計算及び地盤調査データを確認してその安全性を確保する。

② 施工時において

擁壁等の沈下が無いよう、平板載荷試験によって地盤の地耐力を確認する。
結果、軟弱地盤があった場合は地盤改良等の処置を検討し実施する。

鉄筋の使用材料の確認や施工ピッチやラップ長の確認を行い、写真撮影にて管理する。

コンクリートの強度が確保できるよう、スランプ試験及び圧縮強度試験を行う。
水抜き穴は 3 m に 1 か所、伸縮目地の位置、隅部補強等を十分に設計図書から確認して施工を行う。

各工程で中間検査を行い、施工不良を起こさない。

③ 工事完了後において

工事完了後は構造物にクラックは無い、沈下が無い、水抜き穴は機能しているか等のほか、事業地を総合的に見て安全性の確認を行う。

※開発行為では工程ごとに以下の中間検査を行政により実施している。

表 3-39 工事の工程報告等について

開発許可条件 別紙

工事の工程報告等について		
この開発行為の造成工事の施工に際しては、下表に掲げる工事種別または工程のうち、該当するものについて、その工程に達する1週間前までにこの旨を当課に報告してください。		
その際、中間検査の有無及びその施工状況を明示した写真の撮影（工事完了検査の際に、関係書類に添付する）等の詳細について確認し、対応してください。		
報告先		
八王子市役所 まちなみ整備部 開発審査課		
工事種別	指定欄 (○印)	工 程
1 盛土工事	A	有孔暗渠を敷設したとき
	B	軟弱な地盤の地盤改良等の工事を行ったとき
	C	傾斜面の段切りを行ったとき
	D	
2 擁壁工事	A	根切を完了したとき
	B	基礎配筋を完了したとき
	C	壁配筋を完了したとき
	D	縦積み造擁壁をその前面地盤の高さ迄築造したとき
	E	縦積み造擁壁を下端から1/2の高さ迄築造したとき
	F	地耐力を確認するとき
	G	
3 排水施設工事	A	主要な暗渠を敷設したとき
	B	軟弱な地盤における排水施設の基礎工事を行ったとき
	C	
4 道路工事	A	舗装工事を始めるとき
	B	
5 貯水施設工事	A	根切を完了したとき
	B	底板の配筋を完了したとき
	C	床版の配筋を完了したとき
	D	
6 その他	A	
	B	
	C	
注意事項	1 写真の撮影は、各工程の状況および構造物の形状、寸法を明らかにするもので（箱尺、テープ等をそえて寸法がわかるもの）検査の際に工事の全容が明示できるようにするものです。	
	2 写真に番号をつけ、撮影位置、方向目付を別紙に記入、整理しておいてください。	
	3 当課は、上記の報告に基づき工事の的確な進捗状況を把握するとともに、必要に応じて現地指導、中間検査等を行います。	

8. 雨水排水計画・汚水排水計画・防災計画

1) 雨水排水計画の概要

本事業地内の雨水は宅地内と公園は敷地内浸透処理とし浸透トレンチを設置する。道路雨水排水は大きく二つの流域に分けた。地域自治会との協議により、平成18年・27年の開発行為で設置した雨水管に流入する量を減らし、南西側に新たに築造する計画道路から、八王子市幹線2級7号線の既設雨水管へ流入するように流量計算を行って計画した。

図の排水区画割平面図に記載されたA・D管路は平成27年の開発行為で築造した雨水管φ600へ放流する。B管路は八王子市幹線2級7号線内の既設管φ600に放流する。C管路は平成18年の開発行為で築造した雨水管φ300へ放流する。管渠の断面の決定及び既設の雨水管の能力は以降の計算により確認した。

2) 管渠の設計

管渠の勾配及び断面積は、5年に1回の確率で想定される降雨強度式を用いて算出する。

- ① 計画雨水量の計算方法は合理式を用いて行う。

合理式 $Q = 1/360 \cdot C \cdot T \cdot A$

Q : 計画雨水量 (m³/sec)

T : 降雨強度 (mm/時間)

C : 流出係数

A : 排水面積 (ha)

- ② 流出係数は当該排水区域における降雨量のうち、途中での蒸発浸透などを除いたもので、管渠へ流入する雨水量の割合をいう。道路の流出係数は下記の通りとした。

流出係数	土地利用
0.9	道路

- ③ 降雨強度式は5年に1回の確率で想定される公式を用いた。

5年に1回の降雨強度式

$t = 1200 / t^{2/3} + 5$

t : 降雨強度 (mm/時間)

t : 流達時間 (10分)

管渠の設計は事業地内を区別して、各排水面積に対応し且つ集積した雨水排水が可能な

断面を選出する。
以降に管渠の断面算出計算書及び排水区画割平面図を示す。

表3-40 管渠の断面算出計算書

A管路

番号	面積 (m ²)	累計面積 (m ²)	流出係数	降雨強度 (mm/ha)	計画流量 (m ³ /sec)	累計計画流量 (m ³ /sec)	排水径 (mm)	形状寸法 (φ/深)	勾配 (‰)	流速 (m/sec)	流量 (m ³ /sec)	備考
①	931.14		0.9	124.16	0.028		φ300		5	0.872	0.044	
②	222.96	1157.13	0.9	124.16	0.007	0.036	φ300		5	0.997	0.070	
③	1011.18	2168.61	0.9	124.16	0.031	0.067	φ100		15	2.755	0.346	
④	879.98	3048.59	0.9	124.16	0.027	0.094	φ500		10	2.632	0.516	①～③まで
⑤	216.61		0.9	124.16	0.007		φ250		30	2.773	0.136	
⑥	230.41		0.9	124.16	0.007		φ250		30	2.773	0.136	
⑦	428.72	3524.39	0.9	124.46	0.013	0.121	φ600		10	2.986	0.844	①～⑥まで

B管路

番号	面積 (m ²)	累計面積 (m ²)	流出係数	降雨強度 (mm/ha)	計画流量 (m ³ /sec)	累計計画流量 (m ³ /sec)	排水径 (mm)	形状寸法 (φ/深)	勾配 (‰)	流速 (m/sec)	流量 (m ³ /sec)	備考
①	677.92		0.9	124.16	0.021		φ300		5	0.997	0.070	
②	211.18		0.9	124.16	0.007		φ250		5	0.872	0.044	
③	312.98	1205.08	0.9	124.16	0.01	0.038	φ100		8	2.011	0.252	①～②まで
④	220.74		0.9	124.16	0.007		φ300		5	0.997	0.070	
⑤	659.23		0.9	124.46	0.021		φ300		5	0.997	0.070	
⑥	1136.10	3220.68	0.9	124.46	0.035	0.101	φ500		8	2.553	0.432	①～⑤まで
⑦	2670.01		0.9	124.46	0.083		φ250		69	4.176	0.205	
⑧	371.96	3041.96	0.9	124.46	0.012	0.096	φ100		8	2.011	0.252	①～⑥まで
⑨	71.01		0.9	124.16	0.002		φ180		15	1.506	0.032	
⑩	117.96		0.9	124.16	0.004		φ180		50	2.581	0.059	
⑪	333.32	6787.66	0.9	124.16	0.01	0.212	φ600		8	2.670	0.755	①～⑩まで

C管路

番号	面積 (m ²)	累計面積 (m ²)	流出係数	降雨強度 (mm/ha)	計画流量 (m ³ /sec)	累計計画流量 (m ³ /sec)	排水径 (mm)	形状寸法 (φ/深)	勾配 (‰)	流速 (m/sec)	流量 (m ³ /sec)	備考
①	658.96		0.9	124.15	0.021		φ300		25	2.893	0.204	

D管路

番号	面積 (m ²)	累計面積 (m ²)	流出係数	降雨強度 (mm/ha)	計画流量 (m ³ /sec)	累計計画流量 (m ³ /sec)	排水径 (mm)	形状寸法 (φ/深)	勾配 (‰)	流速 (m/sec)	流量 (m ³ /sec)	備考
①	462.48		0.9	124.15	0.014		φ300		20	2.587	0.182	

既設管路

番号	面積 (m ²)	累計面積 (m ²)	流出係数	降雨強度 (mm/ha)	計画流量 (m ³ /sec)	累計計画流量 (m ³ /sec)	排水径 (mm)	形状寸法 (φ/深)	勾配 (‰)	流速 (m/sec)	流量 (m ³ /sec)	備考
A管路	6669.80		0.9	124.16	0.208		φ600		8	2.670	0.755	
D管路	462.48		0.9	124.46	0.014		φ300		5	2.587	0.182	
既設管路	1588.36	8720.64	0.9	124.16	0.049	0.271	φ600		17	2.946	0.904	既設管最低勾配で検討

の排水計算はクッカー公式を使用

$Q = 1/360 \cdot C \cdot I \cdot A$ $I = 1200 / (T^{2/3} + 5.0)$ $T = 10$ 分とする

Q : 放流量 (m³/sec)

C : 流出係数 0.90 (施設部) 0.50 (植栽部) 0.30 (残留緑地)

I : 降雨強度 (mm/ha) $Q = 1/360 \times C \times 124.461 \times A$

A : 排水面積 (m²)

3) 宅地、公園、集会場等の雨水処理

宅地内と公園、集会場は敷地内浸透処理とし浸透トレンチを設置する。
 浸透トレンチの規模の決定には『八王子市「都市計画法」の規定に基づく開発行為の許可等に関する審査基準』の浸透トレンチの計算手順（以下参照）に当てはめて大きさと延長を決定する。

表 3-41 トレンチの計算手順

トレンチの計算手順（降雨強度 50mm/hr）
 1 設計条件の設定

設計条件記入欄

(1) 宅地の状況
 ① 宅地の面積 A = [] (ha) ② 降雨強度 c = [] (降雨強度「都市計画法」による)
 ③ その宅地からの許可放流量（放流地点） $Q_c = []$ (m³/sec)
 (2) 浸透の寸法（円すい）
 ④ 幅 B₁ = [] (m) ⑤ 有効深さ h₁ = [] (m)
 ⑥ ますの個数 n₁ = [] (個)
 (3) トレンチの寸法
 ⑦ 幅を b = [] (m) ⑧ 幅を B = [] (m) ⑨ 有効深さを h = [] (m)

2 配分された許可放流量の比流量の計算（配分比に相当し、この数値で面積係数を引くこと）

$$⑩ \gamma = \frac{Q_c}{A} = \frac{③}{①} = [] \text{ (m}^3/\text{sec/ha)}$$

3 浸透ますの受け持ち面積の計算
 ⑪ 面積係数 a₁ = [] (2)⑧より面積係数表を引く
 ⑫ ますの受持面積 A' = a₁ / ⑩ = [] (ha)

4 トレンチの有効水深の算定
 ⑬ 断面係数 R = [] (m)

$$⑭ \text{トレンチの空隙 } S = \frac{\pi \cdot d^2}{4} + \left(S - \frac{\pi \cdot d^2}{4} \right) \times 0.3$$

$$= \frac{3.14 \times ⑧^2}{4} + \left(⑧ - \frac{3.14 \times ⑧^2}{4} \right) \times 0.3 = [] \text{ (m)}$$
 ⑮ トレンチの有効水深 h₂ = S / ⑨ = [] (m)

5 トレンチの延長
 ⑯ トレンチで対応する面積 A* = A - A' = ① - ⑫ = [] (ha)
 ⑰ 面積係数 a₂ = [] (2)⑨より面積係数表を引く
 ⑱ 必要面積 A'' = A* × a₂ = [] (ha)
 ⑲ 必要延長 L = A'' / ⑧ = [] (m)

6 トレンチチェックシートに入れて、トレンチの有効水深 h₂ がトレンチの必要有効深さ h 以上であることを確認すること。

浸透トレンチの延長が算出できたら、以下のトレンチチェックシートに当てはめて、トレンチの有効水深 h₂ がトレンチの必要有効深さ h 以上であることを確認する。

表 3-42 トレンチチェックシート

トレンチ用チェックシート
 1 設計条件の設定

設計条件記入欄

(1) 宅地の状況
 ① 宅地の面積 A = [] (ha) ② 降雨強度 c = [] (降雨強度「都市計画法」による)
 ③ 浸透係数 R = [] (浸透係数表による) ④ 定数 a = 5.0 b = 1200
 ⑤ 許可放流量（放流地点） $Q_c = []$ (m³/sec) = $\frac{1}{360} \times C \times r_c \times A$
 浸透係数表

区分	新規工事	
	黒ぼく	砂れき
行き来が 多しな トレンチ	0.3mm/sec	0.0mm/sec

 (2) トレンチが砂利層まで到達する場合は想定していない。浸透係数表の砂利層は除いた。
 (2) トレンチの計算手順で求めた値
 ⑥ ますの受持面積 A' = [] (ha) ⑦ トレンチで対応する面積 A* = [] (ha)
 ⑧ トレンチの必要面積 A'' = [] (ha)

2 トレンチの必要有効深さの計算

⑩ 許可流量に相当する降雨強度 $r_c = \frac{360 \cdot Q_c}{C \cdot A} = \frac{360 \times ③}{② \times ①} = []$ (mm/hr)

⑪ $P = \frac{r_c}{2} = ⑩ \div 2 = []$ (許可放流量のない場合は0とする)

⑫ $S = \frac{60}{1000} \cdot R \cdot a_{12} = \frac{60}{1000} \times ③ \times ④ = []$

⑬ $Q = \frac{A'' \cdot 60 \cdot C}{360} = \frac{⑦ \times 60 \times ⑤}{360} = []$

⑭ $Y = \frac{P \cdot Q + S}{Q \cdot b} = \frac{⑪ \times ⑬ + ⑫}{⑧ \times 1200} = []$

⑮ $X = \frac{\left(\frac{1}{3} - 2 \cdot a \cdot Y \right) + \sqrt{\frac{R}{3} \cdot a \cdot Y + 9}}{2 \cdot a \cdot Y}$
 $= \frac{10.3333 - 2 \times 5.0 \times ⑫}{2 \times ④} + \sqrt{\frac{2.6667 \times 5.0 \times ⑫ + 0.1111}{2 \times ④}} = []$

⑯ $t_c = X^{12} = \sqrt{X^3} = \sqrt{⑮^3} = []$ (分)

各施設の必要な浸透トレンチの規模は給排水施設計画平面図内に記載した。

トレンチ管設計延長(宅地内雨水)

集水区域	管径	設計延長(m)
1	1000×1000	5.80
2	"	5.10
3	"	5.40
4~5	"	5.30
6	"	6.20
7~8	"	5.70
9~11	"	5.20
12~8	"	5.00
16	"	5.50
20	"	5.10
21	"	5.00
22~30	2000×1500	2.50
31	1000×1000	5.00
32~37	"	4.70
38	"	4.90
39	"	5.20
40	"	5.50
41~47	"	5.00
48	"	4.90
49~55	"	4.80
56~62	"	5.00
63	"	4.80
64	2000×1500	2.50
65~67	1000×1000	5.20
68~75	2000×1500	2.50
76~77	1000×1000	5.20
78	"	6.50
79	"	4.90
80	"	4.80
81	"	4.90
82~85	"	5.00
86	"	5.20
87	"	5.20
88~91	"	5.00
92~107	2000×1500	2.50
108	"	2.70
109	"	2.90
110~117	1000×1000	5.70
118	2000×1500	2.50
119~121	1000×1000	5.20
122	2000×1500	2.50
123~21	1000×1000	5.40
22~27	"	5.20
28~29	2000×1500	2.70
30	1000×1000	5.40
31	"	5.70
32	"	5.50
33	"	5.50
34	"	5.40
35~38	"	5.40
39~38	2000×1500	2.50
40~47	1000×1000	5.20
48~50	"	5.00
51~57	"	5.20
58	"	4.70
59	"	4.80
60	"	5.10
61	"	5.40
62	"	5.10
63	"	5.40
64	"	5.10
65	"	5.40
66	"	5.20
67	"	5.40
68	"	5.20
69	"	5.40
70	"	5.40
71	"	5.40
72	"	5.40
73	"	5.40
74	"	5.40
75	"	5.40
76	"	5.40
77	"	5.40
78	"	5.40
79	"	5.40
80	"	5.40
81	"	5.40
82	"	5.40
83	"	5.40
84	"	5.40
85	"	5.40
86	"	5.40
87	"	5.40
88	"	5.40
89	"	5.40
90	"	5.40
91	"	5.40
92	"	5.40
93	"	5.40
94	"	5.40
95	"	5.40
96	"	5.40
97	"	5.40
98	"	5.40
99	"	5.40
100	"	5.40
101	"	5.40
102	"	5.40
103	"	5.40
104	"	5.40
105	"	5.40
106	"	5.40
107	"	5.40
108	"	5.40
109	"	5.40
110	"	5.40
111	"	5.40
112	"	5.40
113	"	5.40
114	"	5.40
115	"	5.40
116	"	5.40
117	"	5.40
118	"	5.40
119	"	5.40
120	"	5.40
121	"	5.40
122	"	5.40
123	"	5.40
124	"	5.40
125	"	5.40
126	"	5.40
127	"	5.40
128	"	5.40
129	"	5.40
130	"	5.40
131	"	5.40
132	"	5.40
133	"	5.40
134	"	5.40
135	"	5.40
136	"	5.40
137	"	5.40
138	"	5.40
139	"	5.40
140	"	5.40
141	"	5.40
142	"	5.40
143	"	5.40
144	"	5.40
145	"	5.40
146	"	5.40
147	"	5.40
148	"	5.40
149	"	5.40
150	"	5.40
151	"	5.40
152	"	5.40
153	"	5.40
154	"	5.40
155	"	5.40
156	"	5.40
157	"	5.40
158	"	5.40
159	"	5.40
160	"	5.40
161	"	5.40
162	"	5.40
163	"	5.40
164	"	5.40
165	"	5.40
166	"	5.40
167	"	5.40
168	"	5.40
169	"	5.40
170	"	5.40
171	"	5.40
172	"	5.40
173	"	5.40
174	"	5.40
175	"	5.40
176	"	5.40
177	"	5.40
178	"	5.40
179	"	5.40
180	"	5.40
181	"	5.40
182	"	5.40
183	"	5.40
184	"	5.40
185	"	5.40
186	"	5.40
187	"	5.40
188	"	5.40
189	"	5.40
190	"	5.40
191	"	5.40
192	"	5.40
193	"	5.40
194	"	5.40
195	"	5.40
196	"	5.40
197	"	5.40
198	"	5.40
199	"	5.40
200	"	5.40
公園1	"	5.3.7C
公園2	"	5.3.3C
空地	"	3.1C
空地2	"	1.1C

※管路Cは平成18年開発の既設管へ流入

※管路Bは平成27年開発の既設管へ流入

※公園の浸透トレンチへ流入

※管路Aは八王子市幹線2級7号線の既設管へ流入

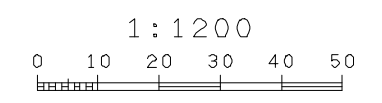
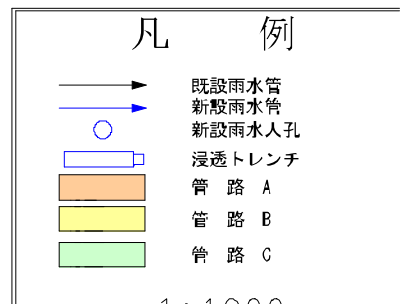


図3-40 排水区画割平面図